

話によれば今年は例年に比べれば暖冬であったらしい。それでも氷点下を超える気温は体にこたえる。とある研究室にいる知人の話では、窓を割ってリスが部屋の中に入ってきたんだそうだ。リスも寒いと感じるのは人と同じなのかもしれない。

## 講義の経過

### ESL115 Principles of Academic Writing

この教科はより専門的な内容の文を書くための教科である。基本的に討論文などの書き物中心の授業形態であるが、各学生の専門に合わせて、レポートの記述についても助言を与えてくれることがすばらしい。しかし、これらも授業として行うかどうかは担当の講師の判断だそうだ。

### ME 370 Mechanical Design, I

この教科は機構学について学ぶ科目である。この科目は自分の専攻ということもあり、他の AE (Aerospace Engineering) の科目に比べ理解しやすい。しかし、定義する専門用語あるいは技術用語が、教科や教授で違ったりで時折混乱することもある。解析ソフトウェアを使っただけの授業もあるが、ある程度の操作方を約2時間の講義で教え、後はこの解析ソフトウェアを使っただけの課題が提示され、解析結果を提出するといった流れである。

### AE 353 Aerospace Control Systems

この教科はフィードバック制御について学ぶ科目である。AE での授業ということもあり航空機やロケットの運動についての例題も多いのは実に面白い。それだけに学生は真剣に取り組んでいる。中には提出期限より前に課題を提出する者もいるほど積極的である。

### AE 410 Computational Fluid Dynamics

この科目は CFD について学ぶ科目である。この科目にとって宿題がかなりの負担となっている。計算結果のみをまとめればいだけでなく、本学の専門実験のレポートのそれに解説を加えなければならない。計算結果を出すだけで限界の私にとって重荷のある授業であったかもしれないが、引き続き努力に勤めたい。

## DBF での活動

DBF の大会も近づき活動も活発になってきた。今まで毎週土曜日に製作時間を設けていたが、ほぼ毎日のようにそれは行われるようになった。チームに馴染んできた私であるが、まだ馴染めないものが、インチ(長さの単位)、ポンド(質量単位)など、こちらで一般に使われる単位である。周知の通りアメリカでは英単位(インチ、ポンドなど)が主流である。ゆえに、メートル法が基準とはいえ講義等でも英単位を使って、講義する教授もいる。DBF では週2回のミーティングがあり、その場で技術的な課題について議論するわけだが、ある部品の寸法の確認でインチで言われても一体どれくらいの大きさなのかイメージがなかなか掴めにくく、大体の大きさを紙面に書いてイメージを掴もうとしている。単位が違うならば、ただ単に換算すればいいというだけの問題だけでなく、物づくりにおいては互換性が合うかどうかの方が問題である。DBF チームでは日本製のサーボモータを使用し、説明書にも寸法は書いてあるがメートル法で記載されており、定規で図ってインチに換算している。そうしなければ、互換性のあるサーボモータの土台を作れないからである。また、私の場合であるがインチを使用している作業はなかなか捗らない。その旨を伝えてみると、

やはり彼らもメートル法が嫌いらしい。

そういえば、数年前に NASA の火星探査衛星が行方不明になり、その原因はメートル単位とインチ単位の混乱によるものという有名な話があり、当時の私は初歩的なミスだと思っていたが、いざ経験した身になると以外に大きな問題であると感じられた。